

令和6年度 青梅市立第六中学校 学校評価

令和6年2月

＜学校経営方針の重点＞

- 1 学力の定着・伸長
- 2 体験的な学習や特別活動等の充実
- 3 コミュニティスクールの確実な運用と地域との協働
- 4 教職員の働き方改革のさらなる推進

＜評価指標＞

- A: 目標を上回り達成できた B: 目標を達成できた
C: 達成にやや及ばなかった D: 達成できなかった

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
学力の向上	「今求められる学力」を定着、伸長させる。	「主体的に学習に取り組む態度」の醸成を最優先課題として学力の向上を図る。	「六中授業スタンダード」（生徒の「主体的な学び」を導く「学習プロセス」の工夫などの取組）を日常的に確実に実践する。	B	主体的に学習に取り組む態度の育成を図るため、年間を通じて「六中授業スタンダード」の徹底を図った。一人一台端末の活用は、各単元の「協働的な学び」における実践を目指した。学力諸調査の結果では都平均等は上回ったが、経年比較では学習調整力に課題が見られた。一方で「粘り強さ」には有意な上昇が見られた。	今年度は生徒に、「振り返る、見通す、やり抜く」という行動目標を示したが、次年度も継続し学習調整力の伸長に努める。具体的には、一人一台端末を有効に活用しながら、単元のねらい、そして学習デザインを明確に計画し、指導の工夫・改善を図る。	A	・「学びに向かう力」調査結果概要をみて、少人数ならではの先生方のフォローが伺える。 ・「学びに向かう力」の調査に見られるように、昨年度より向上している傾向が見られるのは、毎日の授業が充実している結果だと思う。 ・タブレットの活用が定着してきていると思う。スタディサブリの活用で今まで家庭での勉強方法がわからなかった生徒も助かっていると思う。	・肯定的な評価を受けたので、今後も同様に推進していく。 ・PTA 費から拠出のスタディサブリは生徒の学習に役立っている。教員も改めて研修を受け、さらに有効活用できるようにする。
			一人一台端末を有効に活用しながら、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を単元に1回以上実践する。	B			A		
			すべての教員が資質・能力の向上を目指し、積極的な研修の受講、またリカレント、リスキリング等などの研さんを行う。	B			B	・ゲストティーチャーとして数回授業を担当した中、先生方の準備や教材の開発、事前・事後指導も素晴らしかった。 ・先生方のスキルが毎年、向上していると思う。新しい勉強方法を今の子供達に合った形で取り入れている。	
体験的な学習の充実	「持続可能な社会の創り手」としての力を養う。	地域学やSDGsに関する学習を軸に、課題発見及び解決のための力や創造性、自己有用感等を育成する。	ゲストティーチャーの活用や学習展開の工夫など、「青梅学」における学習活動を学校全体として協議、実践する。	A	青梅学は昨年度から継続した学習活動であるが、今年度は少し発展させ、生徒自らが課題を発見・解決する活動を主とした。また、異年齢集団での協議なども取り入れた。 ・今後の方向性や取組等、また生徒に身に付けさせたい資質・能力等についてなど、研修等で理解を深めることができた。	生徒に身に付けさせたい力について繰り返し協議しながら、新たな学習活動を計画、実践する。また、アントレプレナーシップ教育など、持続可能な社会の創り手としての素養も身に付けさせる。	A	・ホタル保全の活動等に関わった先生方、生徒の学びに活かされていると思う。 ・地域、能楽、箏、オリンピック代表選手の講演など、幅広い分野での授業が素晴らしい。今後も期待している。	今後も様々な分野のゲストティーチャーを招き、生徒が良い「刺激」を受けられるよう工夫、実践する。

体験的な学習の充実	「持続可能な社会の創り手」としての力を養う。	地域学やSDGsに関する学習を軸に、課題発見及び解決のための力や創造性、自己有用感等を育成する。	校外学習等の体験的な学習全てにおいて、事前調査や事後のまとめなど、係る学習活動の工夫・改善を図る。	B	・体験的な学習や講義・講演を計画的に行うなど、各学年において従来の取組に対して工夫・改善しながら進めた。特に2年生の校外学習は特色ある活動と位置づけ、新たな取組として試みた。 ・特別活動においては、生徒会活動や学校行事など、リーダーシップやフォロワーシップの伸長を図るため、生徒が様々な役割を果たせるような工夫を行った。	校外学習、宿泊を伴う学習について、今年度より内容等の検討を始めた。また、他の学校行事についても、工夫・改善を図る協議を進めている。先述のとおり、生徒に身に付けさせたい力に焦点をあてながら、計画、実施する。	A	・学校だよりでの報告で理解できた。ただ、情報発信がたよりのみでリアルさがなかった。 ・よく取り組まれていたようだ。 ・小曾木とは違う都会での校外学習は刺激的だったと思う。生徒の感想にもあったように、良く計画をして実行できたと思う。 ・スポレクでのゴルフ部の紹介、体験活動など生徒が積極的に行っていた。 ・生徒の自己有用感の育成が図られている授業だと感じた。	・校外学習等は、内容の改編も含め、さらに工夫を図る。 ・情報発信については、個人情報等の扱い等に留意した方法を検討する。生徒が直向きに取り組む態度が的確に評価されたと考える。
			特別活動において、達成感や成就感、また必要な資質等が得られるよう、コミュニケーションを重視した学習活動の工夫、充実を日常的に実践する。	B			B		
地域連携の推進	小学校や地域との有効な連携、協働を図る。	CSがより有効となるよう工夫・改善を加え、計画的・組織的に運用する。また、小学校や地域との連携、協働を充実させる。	学校運営協議会を計画的に実施し、2回は熟議を行う。また研修会や合同行事など七小との連携について、例年以上に工夫しながら実践する。	B	・運営協議会また拡大協議会は計画通りに行った。合同研修については内容を再考する。教員研修や合同行事も、臨機応変に協議しながら進めることができた。	・CS 合同研修については、先進地区の方の講演等を計画する。 ・授業力向上に向けて、さらに工夫・改善をする。	B	・研修会はなかったものの、運営協議会は計画通り行われ、熟議を行い良かったと考える。 ・小・中の一貫したグランドデザインがみえてこなかった。 ・土曜日の協議会は出席しやすいが、平日の日中は難しい。	・CS は方針、校種の違い等もあるので、従来通り連携が必要な取組について協働する。
			CS の組織や運用等の改善・刷新、また地域との協働について実践を進めながら協議、検討し、次年度の新たな運用開始を目指す。	B	CS として3年目となるが、理解、実践は不十分とは言えない。学校の方針等を示しながら具体的な実践を進め、組織の再編を進めながらCS の機能を高める。	・紹介のためのリーフレットを地域に配付し、理解を得る。 ・より実効性のある組織となるよう、事務局の開設やコーディネータの配置など、再編を進める。	B	・次年度以降については、方針も暫定的であり、今後の運用まで詳しく協議出来なかった ・熟議がうまく出来ていない。事前に資料をもらいたい。 ・この項目について、実現可能な計画が見えなかった。 ・生徒数も減少していくので、七小との連携は特に考えていかなければならないと思う。	・今年度は施策のための人材の確保等に注力したが、試行までには至らず実績を示せなかった。次年度より少しずつ示せるようにする。
			地域主催の行事に対して、教職員は年に1回以上の参加を目途として積極的に関わり、地域との連携、協働を図る。	B	地域清掃、地区文化祭など、年に1回以上教員が参加した。また、防災を視点とした連絡、調整も図った。	・地域内の様々な状況を踏まえながら、今後も連携、協働を図る。 ・防災に関しては地域のハブとしての役割が果たせるよう、青梅市と接続しながら進めていく。	B	・第六支会の自主防災組織主催の防災訓練においては、今までどおり行っていきたい。 ・ゴルフ部の生徒はスポレクフェスタにおいて、スナッグゴルフの指導も行い好評だった。 ・黒沢川清掃の参加、ありがとうございました。 ・スポレク参加のゴルフ部、文化祭参加の茶道部など、先生方も参加され、とても有難い。	生徒も教員も、地域の方と積極的に関わることができた。

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
働き方改革の推進	教職員の「働き方改革」をさらに推進する。	教職員のライフ・エンゲージメントの高揚、ウェルビーイングの向上を図る。	月2回の定時退勤日の設定、また年3回以上の積極的な年休取得、長期休業日の日直勤務の改善を周知徹底し、各教職員のライフエンゲージメントの高揚を図る。	A	・定時退勤日、長期休業日の日直勤務の工夫など、ほぼ計画通りに行った。 ・年休取得等についてはまだ厳しい状況がある。教員それぞれが必要とするリスクリング等ができるよう、新たな取組を検討、実施する。	・次年度以降の工夫として、CSの利点を生かした取組を検討、準備する。 ・学校からの情報発信について、リニューアルされるHPやアプリ等を活用した実践を検討である。	A	・夏休み明けの校庭及び校舎まわりの雑草、PTA及び地域に応援を依頼しても良いと思う。 ・現在の学校経営には、「働き方改革」、「地域の中の学校」、「学校の持続性」を地域状況のバランスを捉えて進める必要があると思うが、「働き方改革」の部分に重きを置き過ぎているように見えた。	・校内外の環境整備については、CSを中心にして応援の要請を検討する。 ・教員の勤務の現状や問題化している教員不足など、多くの方に理解していただけるよう今後も発信していく。
			教科や領域、また学級指導等において、計画的かつ意図的に学年ローテーションを実施する。	B	給食や総合的な学習の時間においては、全員であたる、またはローテーション指導するなど工夫して行った。	授業力の向上を図ることも併せて、道徳についてもローテーション指導を検討する。	A		
			本校の規模に適した分掌組織また校務の在り方について協議、検討し、次年度の新たな運用開始を目指す。	B	小規模校であっても学校行事や事務処理は他校と同様にあるので、負担軽減を目的とした再編を提案、検討した。	次年度は新たな組織また校務処理の工夫・改善を試行する。	B		

保護者、学校関係者の皆様

令和6年度アンケートの結果について

生徒及び保護者の皆様を対象としましたアンケートの調査結果を報告いたします。前期調査は令和6年7月に、後期調査は令和7年1月に行ったものです。ご多忙の中、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の結果に基づいてさらなる工夫・改善を図りながら、来年度の実施活動を推進してまいります。今後ともご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

なお、表内の数値は、設問に対する肯定的な回答の割合（「あてはまる」、「大体あてはまる」を合計したもの）を百分率（%）で示したもので

1 集計結果（生徒）

設問	前期	後期	平均
1 先生は、授業のはじめに「めあて」を伝えている。	94	80	87
2 私は「めあて」を理解して学習に取り組んでいる。	77	65	71
3 先生は、授業内容をふり返ったり、学んだことをどう生かしていくか考える場面を作っている。	94	85	90
4 私は、授業中に「見通し」をもって学習に取り組んでいる。	100	90	95
5 先生は、ペアやグループで話し合う活動を取り入れている。	77	90	84
6 私は、話し合い活動で、自分の考え、意見をしっかりと伝えている。	59	70	65
7 私は、「わかる」または「できる」ようになるまで粘り強く取り組んでいる。	82	90	86
8 先生は、「わかる」または「できる」ようになるために様々な工夫をしている。	100	90	95

2 集計結果（保護者）

設問	前期	後期	平均
1 お子さんは、学校へ行くのが楽しいと言っている。	94	80	87
2 お子さんは、タブレットを有効に活用しようとしている（提出物・授業・オンライン等）。	77	65	71
3 お子さんは、学校行事や地域の行事・活動に楽しく参加しようとしている。	94	85	90
4 学校は、教育方針（教育目標）や教育内容を学校だよりやホームページなどで十分に伝えている。	100	90	95
5 学校は、保護者や地域の意見・要望を聞きながら、教育活動の改善に努めようとしている。	77	90	84
6 学校の授業は、教え方を工夫していてわかりやすい。	59	70	65
7 学校は保護者会や授業などで、学習評価の方法を保護者や生徒に説明している。	82	90	86
8 「総合学習」では調べ学習（校外学習、職場体験、修学旅行など）の内容が充実している。	100	90	95
9 道徳の授業で心の育成が図られている（道徳授業地区公開講座：7月2日開催）。	71	65	68
10 明るく挨拶ができる生徒が多いと思う。	94	95	95
11 清掃活動がよく行われている。	77	90	84
12 学校は、子どもの健康や安全に関する指導を十分に行っている（保健だより・保健室前の掲示を参考に）。	88	80	84
13 学校は、子どもの悩みや相談を受け止めている。	71	90	81
14 学校は、学年だよりやホームページ等で教育活動や生徒の様子を伝えている。	82	90	86
15 学校は、PTA活動や地域活動に協力的である。	94	85	90
16 学校は、地域での体験活動やボランティア活動等を通して、地域とのふれあいに努めている。	88	80	84
17 学校は、第七小学校との連携（一貫教育）に努めている。	94	95	95
18 学校の施設・設備（教室・特別教室・体育館等、冷暖房、トイレ、校庭、駐車場整備等）は整備されている。	100	100	100